

(様式 4 : **全対象事業共通**)

令和 6 年度第 1 回エネルギー構造高度化・転換理解促進事業評価報告書

補助事業名	再生可能エネルギー普及啓発事業
補助事業者名	島根県
補助事業の概要	<ul style="list-style-type: none">・再生可能エネルギー・プログラミング教室 小学校高学年を対象に、県内 21 校で開催・再生可能エネルギーに関するセミナー及び意見交換会 自治体、民間事業者、一般県民を対象に、県内 3 会場で開催
総事業費	9,054,410 円
補助金充当額	9,054,410 円
事業終了時点で達成すべき成果目標	<p>【再生可能エネルギー・プログラミング教室】 小学校高学年を対象に、再生可能エネルギーやエネルギーの効率的な利用に関する理解を深めることを目標とする。</p> <p>参加者が分かりやすく、関心を高めるよう工夫した内容での実施に努め、教室終了後、理解度合いを把握するためのアンケート調査を実施し、「よく分かった」「まあまあ分かった」の回答数が参加者全体の 8 割を超える成果指標とする。</p> <p>【再生可能エネルギーに関するセミナー及び意見交換会】 県民・事業者・自治体職員を対象とした再生可能エネルギーに関するセミナーでは、①住民主体の再エネによる地域振興や②再エネと地域の共生について知見を広げ、住民が再エネを通じた地域振興に係るメリット・デメリットの両方を十分に理解することを目標としており、セミナーの理解度合いを把握するためのアンケート調査を実施し、「かなり理解できた」「まあ理解できた」の回答数が参加者全体の 8 割を成果指標とする。</p>
事業終了時点で達成すべき成果目標の達成状況	<p>【再生可能エネルギー・プログラミング教室】 エネルギー資源の有効利用という観点から、自動制御の仕組みなど電気の効率的な利用についてプログラミングを使用した体験型学習を取り入れて教室を開催した。</p>

再生可能エネルギーの講義では、ミニ火力発電機、手回し発電機など学校では準備ができない機材を活用し体験することで、発電の仕組みに対する理解が深まった。また、画像を活用して、実施校の地域にある再生可能エネルギーを紹介し、児童が再生可能エネルギーを身近に感じることができた。

プログラミングの講義では、前半の講義で枯渇するエネルギーと地球温暖化問題を学んだうえで、エネルギーの効率的な利用について考え、省エネ行動につながるプログラミングを使った自動制御の方法を学び、日常生活におけるエネルギーの利用について振り返ることができた。パソコンを二人一組で使用し、児童で学び合う状況を作ることで、積極的に学習に取り組むことができた。

振り返りシート（児童アンケート）では、「化石燃料には限りがあることや、地球環境に与える影響を知った」「地球温暖化が進むことは他人事ではないと思った」「家族に石油や電気を大切に使わないといけないと話したい」「再生可能エネルギーも大切に使いたい」と記載した児童がいることから、枯渇していく化石燃料の状況を理解し、問題解決の方法として再生可能エネルギーの重要性・必要性を認識し、「ひとごと」とせず「わがごと」と意識が変化している様子が見受けられた。資源の枯渇、エネルギー問題、地球温暖化問題を扱うなかで、本事業の目的である次世代を担う子どもたちに環境問題やエネルギーの重要性を、自分のこととして「気づき・理解し・実践する」という普及啓発の効果があつたと考えられる。

【再生可能エネルギーに関するセミナー及び意見交換会】

松江市のセミナーでは、市主催の「まつえ環境フェスティバル」と同時開催で実施した。先進的な取組を進める市の環境イベントに会場した住民等を対象に、施策の動向や再エネのメリット・デメリット及び市が進めるJクレジット事業の紹介などをテーマに講演を行い、参加者の意識の醸成を図った。

邑南町のセミナーでは、町内の地域新電力「おおなんきらりエネルギー（株）」の紹介をはじめ、町が率先して取り組むソーラーシェアリングやPPAの説明等を行い、地域資源を活用した地域振興の在り方を検討した。セミナー内では、付箋を用いて参加者の疑問や意見を募り、講師との意見交換を交えつつ

	<p>進行した。また、同時に「おおなんきらりエネルギー（株）」の相談会場を設け、意識の醸成から実践へと繋げる仕組みづくりを後押しした。</p> <p>隠岐の島町のセミナーでは、離島である当町のポテンシャルの高さや太陽光発電設備の普及状況に触れ、他県の離島の優良事例を紹介しながら、再エネへの理解及び普及の促進を図った。また、邑南町と同様に、付箋を用いた意見交換も実施した。</p> <p>各セミナー後にアンケートを実施したところ、満足度については、全体の81%が「満足」「やや満足」と回答した。また、理解度については84%が「とても理解できた」「まあ理解できた」と回答した。3セミナーとも各市町の担当者と協議を行い、各地域のニーズに応じた内容を取り入れることで、地域の特性に即した地域振興への理解及び活性化を促すことができた。</p>	
<p>補助事業の実施に伴い締結された売買、貸借、請負その他の契約 (※技術開発事業のみ：間接補助を行った場合は、間接補助先を記載)</p>	<p>契約（間接補助）の目的</p>	<p>① 令和6年度「再生可能エネルギー・プログラミング教室」開催業務 ② 再生可能エネルギーに関するセミナー及び意見交換会開催業務</p>
	<p>契約の方法</p>	<p>① ②随意契約 (①②は企画提案競技)</p>
	<p>契約の相手方（間接補助先）</p>	<p>① 一畑電気鉄道株式会社 ② 株式会社エスプールグローバル</p>
	<p>契約金額（間接補助金額）</p>	<p>① 6,737,500円 ② 2,200,000円</p>
<p>来年度以降の事業見通し</p>	<p>次年度も、再生可能エネルギー普及啓発事業として、同様の事業を継続し、再生可能エネルギー導入促進及び発電設備の適切な維持管理につながる土壌、基盤づくりに取り組んでいきたい。</p>	

(備考)

- 1 事業完了した日から3ヶ月以内の提出をお願いします。
- 2 定量的成果目標の欄には補助金応募申請書提出時に設定した成果目標をそれぞれ記載すること。
- 3 補助事業の成果及び評価の欄には、公募要領8. で記載した内容に対応した、定量的な成果実績と評価を記載すること。それ以外にも、定性的な成果実績や、進捗度、利用量並びに効果等といった別の定量的な指標があればできる限り数値を用いて記載すること。
- 4 契約の方法の欄には、一般競争入札、指名競争入札、随意契約の別を記載すること。間接補助を行った場合は、記載不要。

5 来年度以降の事業見通しの欄は、本事業に来年度以降も補助金を充当しようとする場合のみ記載。